



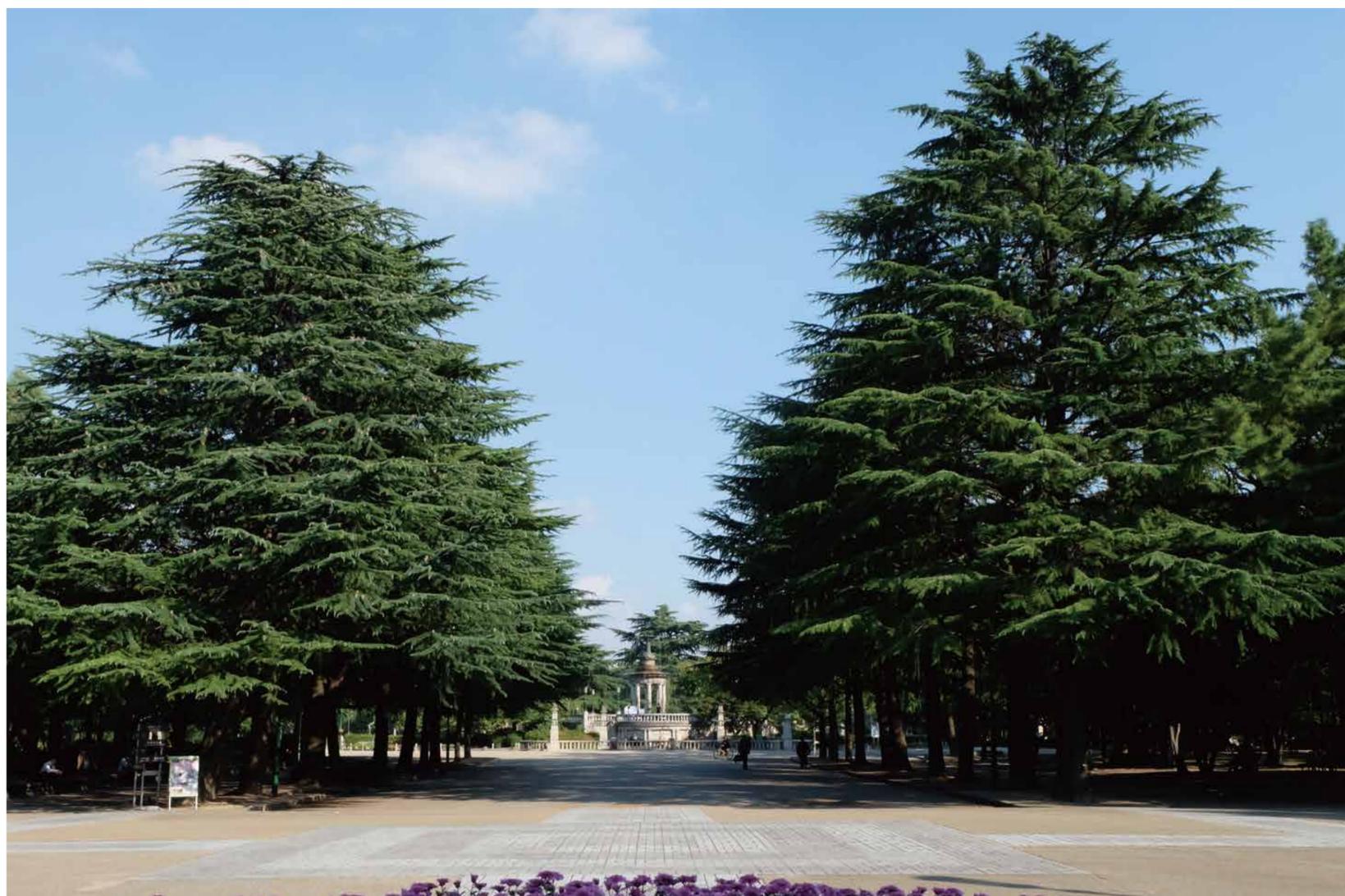
大正3～4年撮影(推定) 明治43年の共進会に合わせ、それまで平面交差していた中央線が高架化され、総理大臣桂太郎の書による「鶴舞公園」の扁額がガード中央に取り付けられた、名古屋市ではここを正門と呼んでいた。



平成28年6月撮影 扁額は平成28年2月に鉄道ガードを管理するJR東海により撤去され名古屋市に戻された(現在は名古屋市で保管)。旧ガードは昭和37年に新しいコンクリート橋に架け替えられ、同41年10月にはコンクリートの桁下に青銅製の「扁額」が復元されたが、今はその跡にはペンキが塗られている。



大正5～6年撮影(推定) このプロムナードは大正3年頃整備されていて、ヒマラヤスギを植えて2～3年が経っているように見受けられる。写真には40～50人が写るが、洋装の人は7～8人程度で、人力車と自転車同居する大正時代ならではの風景である。



平成27年10月撮影 強風に空間を支配するシンメトリーの太軸線は、鶴舞公園を特徴づける象徴的な景観である。浅根性で強風に弱いヒマラヤスギは、伊勢湾台風、第2室戸台風などの度に多くが倒れ、最初に植えたものは恐らく残っていない。



The high storied building Buntenkaku, the art museum and music
 arbour, in Park Tsurumai Koyen. (Nagoya.)
 館術美-左-閣天開-右-堂樂奏・園公舞鶴 (所名屋古名)

昭和6~8年頃公会堂から撮影(推定) 共進会時に鈴木禎次により設計された音楽施設で、日の丸の音符の手摺や豎琴の屋根飾りなどが特徴的。昭和9年9月老朽化のため取り壊された。手前に写る花壇は丸や四角を組合せたシンプルでモダンなものでフランス式の整形花壇とは趣を異にする。



昭和50年頃撮影(推定) 2代目奏楽堂はややモダンなデザインの大理石張りで昭和11年12月に完成。舞台は低いものの周りに柵が無く見通しも良いため、戦後は多くのイベントや盆踊り、ラジオ体操にも使われた。整形式花壇の南側部分は昭和3年代にバラ園となった。(日本の都市公園より)

◆航空写真に見る変遷

飛地分譲時

大正11年6月、愛知病院側の飛地約9200㎡を愛知県に譲渡の議決をし、テニスコートと苗圃の移設費用約5500円も、歳入歳出予算として計上した。

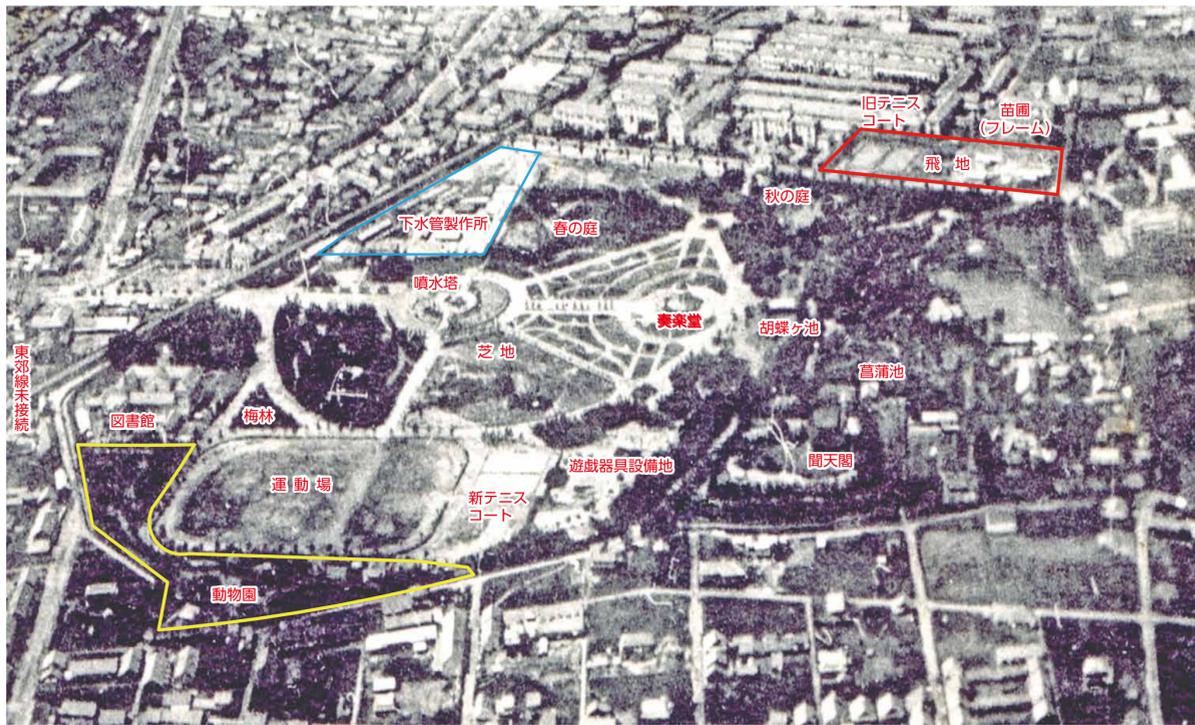
テニスコートの移設先としてグラウンドの東側を縮めて2面を設けた。写真は、その過渡期が新旧両コートが見られる。

公園敷地を占用中の下水管製作所が従前より縮まり、「春の庭」が完成している。

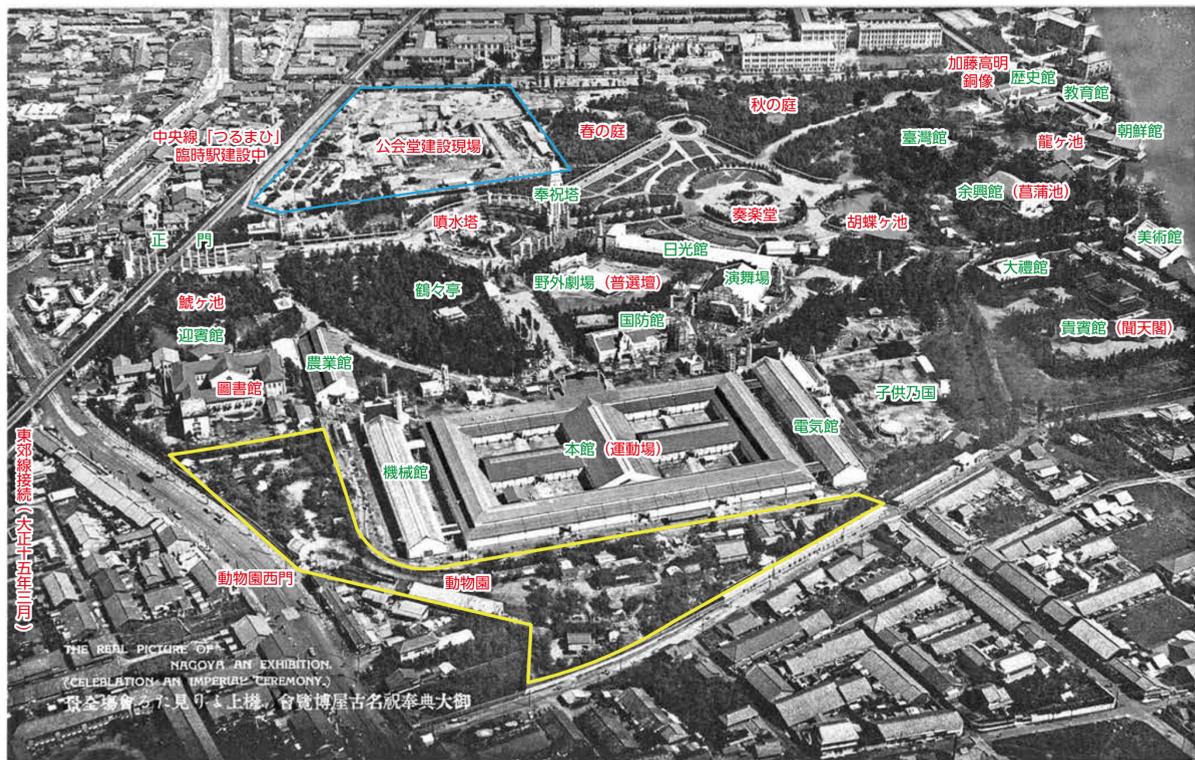
図書館外側の東郊通りは、鶴舞公園駅と繋がっておらず、中央線の下はガードになっていない。

(注: 絵葉書を加工)

1922(大正11)年後半~1923(大正12)年前半



1928(昭和3)年9月



2016(平成28)年10月



御大典時

御大典奉祝博覧会の準備中に撮影された絵葉書。

加藤高明銅像、普選壇はこの年6月に相次いで竣工。

公会堂の基礎工事が始まり、出来上がって間もない「春の庭」は半分がその工事エリアに入る。

その横の中央線は博覧会用に臨時駅を建設中で、線路から降りる斜路が見える。

グラウンド部分に本館を建設したが、終了後は不景気で復旧が遅れ、本格的復旧は昭和7年4月となった。

現代

動物園のあったグラウンド南側のエリアは戦後愛知県と土地の交換がされ、昭和24年勤労会館が建設されたが、平成25年取り壊された。

中央線は連続立体化工事により西に平行移動し、旧来の線路の土手だった場所は道路となった。

聞天閣や猿面茶席のあった場所は戦時中、高射砲8門が設置されたが、戦後は国体のスタジアムを経て、現在は野球場となっている。

注: 本図はGoogle Earthによる3D 作画